



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-B9 ことばと文 化とコミュ ニケーショ ン	20140586014901	●ことばと文 化とコミュニ ケーション Ⅰ(マスメディ アと表現)	和	E	川越 明 日香	1年,2年,3年,4年	後期	木 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-B9 ことばと文 化とコミュ ニケーショ ン	20140586015701	●ことばと文 化とコミュニ ケーション Ⅰ(心とこと ば)	和	E	内野 成 美	1年,2年,3年,4年	後期	木 1	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-B9 ことばと文 化とコミュ ニケーショ ン	20140586015801	●ことばと文 化とコミュニ ケーション Ⅰ(ジェンダー とことば)	和	E	植木 と み子	1年,2年,3年,4年	後期	金 2	～

[戻る](#)

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B9 ことばと文化とコミュニケーション」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586014901	科目番号	05860149
授業科目名	●ことばと文化とコミュニケーションⅠ(マスメディアと表現)		
編集担当教員	川越 明日香		
授業担当教員名(科目責任者)	川越 明日香		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川越 明日香, 矢野 香, 橋本 健夫, 高橋 信雄		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生(クラス等)	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	kawagoe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部258-1号室		
担当教員TEL	095-819-2773		
担当教員オフィスアワー	事前にメールか電話でアポイントメントを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ	文化は作られると同時に伝えられ、深化していくものである。この伝達に大きな役割を果たしているのがマスメディアである。日常の媒体となっている新聞やテレビに焦点を当て、そこで用いられる表現方法を理解するとともに、それらをどのように受け取るべきなのかを考える。		
授業到達目標	①マスメディアが社会の事象をどのように取り上げ、表現するかを理解する。 ②マスメディアからの発信をどのように受信すれば良いかを理解する。 ③自己の意見を持ち、それをどのように発信すれば良いかを理解し、実践できる。		
授業方法(学習指導法)	担当は、橋本、関口、高橋、川越の4名である。この授業においては、予習を重視し、それをもとにした討論での展開を中心とする。学生一人ひとりがそれぞれの課題に向き合い、意見を持って授業に臨むことが重要となる。		
授業内容	回	内容	
	1	担当：橋本 本授業のねらいを説明するとともに、各担当者のこの授業に対する想いを紹介する。そして、各担当者の内容を知らせ、課題等を提示する。	
	2	担当：橋本 市民にとってマスメディアの役割は何かを具体的事例を挙げて議論する。	
	3	担当：川越 受講生が最も重視する具体例について意見を述べる。	
	4	担当：矢野 日常生活におけるテレビの役割について議論する。また、受講生がある事象を取り上げ、それをどのように表現していくかについて考えるとともに発表する。	
	5	担当：矢野 事象を変えて、発信方法を考え、それを批判的に受信することについて考える。	
	6	担当：矢野 〃	
	7	担当：高橋 日常生活における新聞の役割について議論する。また、受講生がある事象を取り上げ、それをどのように表現していくかについて考えるとともに発表する。	
	8	担当：高橋 事象を変えて、発信方法を考え、それを批判的に受信することについて考える。	

	9	担当：高橋 〃
	10	担当：川越・矢野 受講生が新聞記者、あるいはテレビ記者になり、興味ある事象の発信方法を考え、それを紹介する。また、それについて批判を行う。
	11	担当：川越・矢野 〃
	12	担当：川越・矢野 〃
	13	担当：川越・矢野 〃
	14	担当：川越・矢野・高橋 批判を受けて、修正したものを発表し合う。
	15	担当：川越・矢野・高橋 〃
	16	一つの課題をどのように発信するかについて論述テストを行う。
キーワード	マスメディア、発信構成、発信方法、批判的受信	
教科書・教材・参考書	毎日の新聞、テレビ	
成績評価の方法・基準等	各教員25点（予習課題＋授業中の活動＋定期試験）で採点を行う。 授業に出席した時数が3分の2に達しない場合は、失格。	
受講要件（履修条件）	予習する態度が身に付いていること。自分の考えをまとめることができること。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B9 ことばと文化とコミュニケーション」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586015701	科目番号	05860157
授業科目名	●ことばと文化とコミュニケーションⅠ(心とことば)		
編集担当教員	内野 成美		
授業担当教員名(科目責任者)	内野 成美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	内野 成美		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生(クラス等)	学校教育教員養成課程2年		
担当教員Eメールアドレス	soudan@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部シンフォニー 1階		
担当教員TEL	095-819-2297		
担当教員オフィスアワー	随時 まずはメールで確認を		
授業の概要及び位置づけ	心とことばの関係を臨床事例を通して理解する。また、カウンセラーの役割を通すなかで、ことばを用いて相手を理解し、自己を表現する方法を身につける。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① コミュニケーションを支えることばの意義を理解することができる。 ② ことばの持つ内面性について理解することができる。 ③ 多様な言葉を使って、適切なコミュニケーションができる。 		
授業方法(学習指導法)	講義と対話、フィールドワーク		
授業内容	回	内容	
	1	ことばとは	
	2	心の発達	
	3	ことば・社会性の発達	
	4	ことばの発達の遅れについて①	
	5	ことばの発達の遅れについて②	
	6	心とことばの発達のまとめ	
	7	コミュニケーション① 非言語的コミュニケーション	
	8	コミュニケーション② 傾聴訓練	
	9	自分を説明する	
	10	他者を理解する	
	11	対人関係の困難について①	
	12	対人関係の困難について②	
	13	心に寄り添う	
	14	アサーション・トレーニング①	
	15	アサーション・トレーニング②	
16	まとめのレポート		

キーワード	カウンセラー 心理相談 臨床心理士
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。授業時に資料を配付する。
成績評価の方法・基準等	授業参加度・演習（40%）,小レポート（30%）,まとめのレポート（30%）
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	適宜指示する



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2014年度シラバス（教養教育科目）」、開講所属「教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-B9 ことばと文化とコミュニケーション」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586015801	科目番号	05860158
授業科目名	●ことばと文化とコミュニケーションⅠ(ジェンダーとことば)		
編集担当教員	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@kzh.biglobe.ne.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	eメールにて随時受付ます		
授業の概要及び位置づけ	日本語がいかにかにジェンダーと結びついているかを考察する		
授業到達目標	社会的に造られて来た「ジェンダー観」について疑問をもち、グローバルスタンダードを理解する		
授業方法(学習指導法)	課題に関して調べて来た事、考えて来た事をディスカッションする中で、個々人がこれまでとらわれて来た固定観念を考え直すきっかけにする		
授業内容	調査、ディカッション、発表、振り返り		
	回	内容	
	1	「かわいい」ということばについて、1	
	2	「かわいい」ということばについて、2	
	3	歌に表現された女性、1	
	4	歌に表現された女性、2	
	5	名言やことわざの中の女性、1	
	6	名言やことわざの中の女性、2	
	7	女性に関する形容詞、1	
	8	女性に関する形容詞、2	
	9	教科書の中の男性と女性、1	
	10	教科書の中の男性と女性、2	
	11	男ことばと女ことば、1	
	12	男ことばと女ことば、2	
	13	女ことばの政治的機能、1	
	14	女ことばの政治的機能、2	
	15	問題に立ち向かうために	
16			
キーワード			
教科書・教材・参考書	プリント配布		

成績評価の方法・基準等	課題30%、授業参加30%、試験40%
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	常に社会の出来事をチェックし、自分との関係を考えること

